8. 実践現場でよくある質問（Q&A）

滋賀県では、地域の幼稚園・保育所を会場として、保育者を対象に幼児期における自然体験プログラムの企画・立案・展開方法への指導をはじめ取組の支援を進めてきました。

この「実践現場でよくある質問（Q&A）」は、それらに参加された保育者の方々の声をもとにまとめています。

Q1．雨の日も屋外で楽しく遊ぶためには、どのように工夫すればよいでしょうか？

A1
・ぬれない工夫さえしておけば、多少の雨でも外で楽しく遊べます。
雨合羽（できれば上下セパレートのもの）と長靴を用意します。ズボンの裾は長靴の中に入れて、雨合羽の上衣やズボンで上からすっぽりと覆い、雨が入らないようにします。レインハットもあるとよいでしょう。

→ p68「9．服装と持ち物」参照

・雨の日は、例えば「虫の雨宿り」など、晴れの日とはまた違う発見がたくさんあります。
・カップに水をためて色水遊びをすることもできます。

Q2．支援者に対して子どもの数が多いときはどうすればよいでしょうか？

A2
・特に下見をしっかりと行い、活動の前に子どもたちと確認をしておけば、多少人数が多くても対応できるようになります。
・異年齢交流を採り入れるなど、普段から園内外との連携を深めておくことも一つの方法です。

Q3．自然物を必要以上に採ろうとしたり、子どもが持って帰りたいと言って聞かない場合はどのように対応すればよいでしょうか？

A3
・持って帰ろうとする自然物一つひとつが自然の循環の中の一部であるということを伝えることが大切です。
・持ち帰るのではなく、その場所に何度も通って観察することを勧めてみましょう。

・どうしても持って帰りたいなら、例えば木の実の場合、「一番ほしいのを一つだけもらって、残りは鳥さんのために残しておこう。」というように、自然からおすそわけをもらっていることを意識づけるような声かけをするとよいでしょう。

Q 4．生き物が死んでしまったときはどのようにすればよいでしょうか？

A 4
・「死」について考えるチャンスととらえ、まずは子どもと一緒に考えてみましょう。

例：「どうして死んじゃったんだろう？」、「死んだらどうなると思う？」
「どうしてあげたらいいと思う？」
→例えば、話し合いの結果「土に埋める」ということになった場合、土に還る話（自然界の循環）をして自然に対する畏敬の気持ちのめばえにつなげる。

Q 5．説明を聞かなかったり、すぐに飽きたり、プログラムとは無関係な物事に関心が向いてしまった場合は、どのように対応すればよいでしょうか？

A 5
・活動で行うゲームの歌の練習、活動やフィールドに関連する絵本やペープサートづくりなどを通じて、事前に活動への動機付けをしておきましょう。
・活動の最中には、太陽光の向きに注意して、先生の方を向いてもまぶしくないようにし、視覚に訴えるよう、具体的なものを使って説明するなど、子どもが話に集中しやすい環境を作りましょう。
・日常から、子どもが興味を示す対象を把握しておくとよいでしょう。

Q 6．じっくりと散歩をしたり遊んだりするところがない場合、身近に自然体験ができるような場所がない場合は、どうすればよいでしょうか？

A 6
・園庭や周辺を散策して、石や草花などに注目してみましょう。
・「この石の裏には何かいるかな」「ぎんなんはどんなにおいだったかな」など、普段から興味を持って探しましょう。

→p7「4. 自然を感じるための10のヒント」、p8～9「5. 自然体験の『引き出し』」参照

Q 7．植物や動物などの名前がなかなか覚えられず、子どもたちから質問されても答えられないことが多いのですが、どうすればよいでしょうか？

A 7
・まず特徴をよく観察してみましょう。形状などの特徴から名付けられている場合が多いので、意識すると印象に残りやすくなるでしょう。
・調べようとする過程（プロセス）が探求心を生むきっかけにもなります。知っていることでも、あえて子どもたちに質問を投げ返したり、知らないことは一緒に調べてみようと誘ったり、子どもが自分で調べて発見できるように促してみるのもよいでしょう。